

株式会社 JVCケンウッド

2021年10月29日

国内向けカーナビゲーションの生産をJVCケンウッド長野へ全面移管を開始

～国内生産回帰により製品供給効率の最大化とサプライチェーンの強化を図る～

株式会社JVCケンウッドは、国内アフターマーケット向けのAVナビゲーションシステム彩速ナビゲーション（以下、「彩速ナビ」）の生産について、2022年1月から株式会社JVCケンウッド長野（以下、「JK長野」）への全面移管を開始します。また、国内自動車メーカー向けに展開する国内市場向けカーナビゲーションについても段階的に生産移管を行い、中期的には50万台規模の生産体制を目指します。



■ 生産移管の背景

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大による物流をはじめとするサプライチェーンの寸断や、昨今は半導体需給バランスの悪化による部品供給不足、米中貿易摩擦など、さまざまな地政学リスクが顕在化しています。また、自動運転社会に向けて今後重要となる車両サイバーセキュリティ対策への対応強化が求められています。

こうした状況において、当社は中期経営計画「VISION2023」を2021年5月に策定し、新たな経営方針の一つとして掲げた「ものづくりを通じた新たな価値の創造」の実現に向けて、生産拠点における自動化推進や国内生産回帰、サプライヤエコシステムの構築などを軸に、総生産量・総工数に見合った生産拠点規模への統合を目指しています。

■ 生産移管の内容、今後の取り組み

上記背景のもと、当社は国内アフターマーケット向け「彩速ナビ」の生産を、インドネシア工場（PT. JVC Electronics Indonesia）から国内工場（JK長野）へ2022年1月から全面移管を開始することとしました。また、国内自動車メーカー向けに展開する国内市場向けカーナビゲーションの生産を、段階的に上海工場（Shanghai Kenwood Electronics Co., Ltd.）から国内工場（JK長野）へ移管すべく取り組みを開始し、中期的には現在の生産台数10万台の5倍となる50万台規模の生産体制を目指します。国内生産回帰による地産地消で、生産から販売までのリードタイムの短縮やコスト競争力の強化など製品供給効率の最大化を図るとともに、国内自動車メーカーから認定工場として指定されているJK長野での生産に集約することによる対国内自動車メーカー向けの事業拡大を目指します。

また、これに伴ってJK長野は、長野県の産業投資応援条例に基づく助成金を活用するなど設備投資を行い、組立・調整・検査自動化システムを導入。国内アフターマーケット向け「彩速ナビ」2022年モデルから同システムに対応した基本設計の大胆な見直しを実施することで、生産技術機能の増強と高度化を推進します。

今後も当社は、「VISION2023」の基本戦略である“変革と成長”のもと、生産拠点の再編・統合を行うことで、設計・調達・生産・販売のサプライチェーン強化を図ってまいります。

本資料の内容は発表時のものです。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。